

## <IPA 情報発信第 137 号の内容>

### I. 今月のトピックス

#### 1. 「情報セキュリティマネジメント試験」の創設について

本試験は、社会ニーズの高まりを背景に、政府の『「日本再興戦略」改訂 2015』(平成 27 年 6 月閣議決定) や経済産業省 産業構造審議会で示された方向性を踏まえて、国家試験「情報処理技術者試験」の新たな試験区分として創設されました。本試験は、情報セキュリティマネジメントの計画・運用・評価・改善を通して組織の情報セキュリティ確保に貢献し、脅威から継続的に組織を守るための基本的なスキルを認定する試験を平成 28 年度春より実施予定です。

#### 2. 「情報セキュリティスキルアップハンドブック」を発行

本ハンドブックでは、平成 28 年度から開始予定の情報処理技術者試験の新試験区分「情報セキュリティマネジメント試験」の対象者を踏まえ作成していますので、同試験の受験をご検討の方の学習の指針としてもご活用いただけます。

#### 3. 「ソフトウェア開発データが語るメッセージ 2015」を公開

本書は、「実績の高いプロジェクトでは、設計の文書化・レビュー・テストなどの品質保証プロセスや組織体制にどんな傾向があるか」、「経済的に信頼性を確保するためには、どの程度まで品質保証プロセスを実施すれば良いか」といった観点でソフトウェアの信頼性を高めるための指針をとりまとめたものです。

#### 4. 2016 年度「未踏 IT 人材発掘・育成事業」の公募を開始予定

2016 年度「未踏 IT 人材発掘・育成事業」の公募を 10 月上旬から 2016 年 3 月 9 日(水)までの期間で開始を予定しています。

### II. セキュリティセンター

1. 10 月の呼びかけ「ワンクリック請求の被害に備えシステム保護の設定を」を公開
2. 届出から 1 年以上開発者と連絡がとれない“脆弱性”を公開する、新たな運用を開始
3. 重要なセキュリティ情報 (9 月)

### III. ソフトウェア高信頼化センター (SEC)

1. 「セーフティ設計・セキュリティ設計に関する実態調査結果」を公開
2. 「STAMP 手法に関する調査報告書」を公開
3. 「CEATEC JAPAN 2015 (シーテック ジャパン 2015)」に出展 (開催案内)
4. BCN 主催セミナー「必ず役立つ! システム開発の革新的ツール ~コード解析で生産性と品質の向上を両立~」にて講演
5. 「SEC journal 第 42 号」を発刊
6. SEC セミナー開催報告 (9 月) および開催案内 (10 月)

### IV. 国際標準の推進

1. 「情報の価値を最大化する『共通語彙基盤』セミナー~“つながる”データ“つながる”システム~」仙台・札幌・大阪・新潟会場の開催報告

### V. IT 人材育成

1. 「セキュリティ・ミニキャンプ in 北陸」を共催
2. 「価値創造で新たなステージへ~未来をデザインする i コンピテンシ ディクショナリ~」セミナーを開催
3. 平成 27 年度秋期情報処理技術者試験の応募者数について

### VI. その他

1. 「IPA シンポジウム 2015」の開催のご案内

## I. 今月のトピックス

### 1. 「情報セキュリティマネジメント試験」の創設について

(担当理事(本部長)：田中、担当センター長：山城)

IPAは国家試験「情報処理技術者試験」の新たな試験区分として創設する「情報セキュリティマネジメント試験」について、9月15日(火)に公表しました。

ITの高度化やインターネットの普及が進むなか、「情報セキュリティをいかに確保するか」が大きな経営課題となっています。標的型攻撃、内部不正など多種多様な脅威は、「ITによる対策(技術面の対策)」だけではなく、適切な情報管理、業務フローの見直し、組織内規程順守のための従業員の意識向上といった、「人による対策(管理面の対策)」への取組みが重要です。そのための情報セキュリティマネジメントを担う人材の育成をいかに推進していくかが、社会全体での課題であると言えます。

「情報セキュリティマネジメント試験」は、このような社会ニーズの高まりを背景に、政府の『「日本再興戦略」改訂2015』(平成27年6月閣議決定)や経済産業省産業構造審議会を示された方向性を踏まえて、国家試験「情報処理技術者試験」の新たな試験区分として創設されました。本試験は、情報セキュリティマネジメントの計画・運用・評価・改善を通して組織の情報セキュリティ確保に貢献し、脅威から継続的に組織を守るための基本的なスキルを認定する試験です。

本試験は、平成28年度春期から、春期(4月)、秋期(10月)の年2回実施を予定しています。

「情報セキュリティマネジメント試験」の詳細については、次のURLをご覧ください。

<https://www.jitec.ipa.go.jp/sg/>

### 2. 「情報セキュリティスキルアップハンドブック」を発行

(担当理事(本部長)：田中、担当センター長：秋元)

IPAは、9月15日(火)に「情報セキュリティスキルアップハンドブック～情報セキュリティマネジメント人材育成のために～」を発行しました。

本ハンドブックでは、現場部門で情報セキュリティマネジメントを推進する役割を担う人材(情報セキュリティ管理者)に注目し、その役割と業務を定義した上で必要なスキルと育成のための研修ロードマップを提供しています。各組織での情報セキュリティ管理者の育成に向けた参考書として活用いただくことを目的としています。

また、平成28年度から開始予定の情報処理技術者試験の新試験区分「情報セキュリティマネジメント試験」の対象者像を踏まえ作成していますので、同試験の受験をご検討の方の学習の指針としてもご活用いただけます。

本ハンドブックの活用を通じ、各組織の情報セキュリティ管理者の育成および情報セキュリティマネジメント強化が促進されることを期待します。

「情報セキュリティスキルアップハンドブック」は、Amazon から購入できます。  
発行：独立行政法人情報処理推進機構（IPA）  
ISBN：978-4-905318-33-0  
定価：1000 円（税込）

「情報セキュリティスキルアップハンドブック」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/jinzai/hrd/security/>

### 3. 「ソフトウェア開発データが語るメッセージ 2015」を公開

（担当理事（本部長）：立石、担当所長：松本）

IPA は、保有する 3,541 件のソフトウェア開発プロジェクトデータを分析し、「ソフトウェア開発データが語るメッセージ 2015」を 9 月 25 日（金）に公開しました。

本書は、「実績の高いプロジェクトでは、設計の文書化・レビュー・テストなどの品質保証プロセスや組織体制にどんな傾向があるか」、「経済的に信頼性を確保するためには、どの程度まで品質保証プロセスを実施すれば良いか」といった観点でソフトウェアの信頼性を高めるための指針をとりまとめたものです。

IPA は、本書がソフトウェア開発企業の経営者や現場の技術者の間で活用されることでソフトウェア開発現場の品質マネジメントが改善され、ソフトウェアの信頼性がより一層向上していくことを期待しています。

「ソフトウェア開発データが語るメッセージ 2015」の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/sec/reports/20150925.html>

### 4. 2016 年度「未踏 IT 人材発掘・育成事業」の公募を開始予定

（担当理事（本部長）：田中、担当センター長：片岡）

IPA は、2016 年度「未踏 IT 人材発掘・育成事業」の公募を 10 月上旬から 2016 年 3 月 9 日（水）までの期間で予定しています。

未踏 IT 人材発掘・育成事業は、IT 技術を駆使してイノベーションを創出することのできる独創的なアイデア、技術を有するとともに、これらを活用していく能力を有する優れた個人（クリエイター）を発掘・育成することを目的として実施しています。

プロジェクトマネージャーからの指導・助言を受けて、自らが提案するテーマを実現しようとする若い逸材（2016 年 4 月 1 日時点で 25 歳未満の方）からのテーマ提案を募集する予定です。

また、本事業の公募に関する説明会を 10 月 22 日（木）に IPA 会議室（東京都文京区）で開催を予定し、加えて本事業に関する詳細な説明を行い、応募を目指す参加者に本事業の理解を深めていただきます。説明会は、11 月以降東京以外の地区でも実施する予定です。ご興味をお持ちいただいている方は、是非、ご参加ください。

## II. セキュリティセンター

### 1. 10月の呼びかけ「ワンクリック請求の被害に備えシステム保護の設定を」を公開 ～Windows 10 向けの復旧手順書を新たに公開～

(担当理事(本部長)：立石、担当センター長：頓宮)

IPAは、情報セキュリティに関する10月の呼びかけを10月1日(木)に公開しました。呼びかけ内容は、以下のとおりです。

#### 「ワンクリック請求の被害に備えシステム保護の設定を」

2015年7月29日より、特定の条件を満たすパソコンに対してWindows 10への無償アップグレードの提供が始まりました。そのため、8月以降はWindows 10の利用者から「パソコンにアダルトサイトへの登録完了や費用請求の画面(以下、不正画面)が表示されるようになってしまった。どのようにすれば良いか。」という相談も寄せられるようになりました。Windows 10の環境でもアダルトサイトの不正画面が表示されるワンクリック請求の被害は発生すると言えます。

今月の呼びかけでは、Windows10の利用者からアダルトサイトの不正画面が表示されたという相談が寄せられるようになったことから、不正プログラムを実行してしまった際の復旧方法について紹介します。

2015年10月の呼びかけの詳細については、次のURLをご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/txt/2015/10outline.html>

### 2. 届出から1年以上開発者と連絡がとれない“脆弱性”を公開する、新たな運用を開始

(担当理事(本部長)：立石、担当センター長：頓宮)

IPAは、発見・届出された脆弱性のうち、届出から1年以上開発者と連絡がとれないソフトウェア製品の脆弱性が1割弱存在することから、脆弱性情報を公開する、新たな運用を9月3日(木)より開始しました。

IPAはJPCERTコーディネーションセンターと共にソフトウェア製品の脆弱性による被害を低減させるため、「脆弱性関連情報届出制度」を2004年7月から運用しています。この制度運用において、下記2点が関係者の間で問題視されていました。

- ・開発者に連絡がとれないことにより、指摘された脆弱性の修正パッチ等が提供出来ない。
- ・製品利用者が長期にわたり脆弱性の存在を認識できないまま製品を使い続けてしまう。

IPAは、この問題の解消に向け、まず2011年9月から「連絡不能開発者一覧」を公表し、開発者との連絡の糸口獲得に努めてきました。また、一覧では「開発者情報」の公表から3か月後に「製品情報」を公表し、情報提供を広く求めています。

今回の新たな運用は、製品利用者の安全確保を第一義とし、“当該製品を使用しないという選択”を可能とするため、「対策情報が提供されていない製品の脆弱性情報」を公表する新たな運用を開始しました。また、これらの情報は今後、IPA のウェブサイト上の「重要なセキュリティ情報」欄においても「連絡不能公表」として掲出します。

届出から1年以上開発者と連絡がとれない“脆弱性”を公開する、新たな運用の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/about/press/20150903.html>

### 3. 重要なセキュリティ情報（9月）

（担当理事（本部長）：立石、担当センター長：頓宮）

IPAでは、インターネットを使っている多くの利用者が影響を受けるセキュリティ対策情報を対象に「重要なセキュリティ情報<sup>1</sup>」として公開しています。

「重要なセキュリティ情報」とは、放っておくと不正アクセスやデータが盗まれるなどの危険性が高いセキュリティ上の問題と対策についてお伝えするもので、IPA 情報発信では2013年12月より広く啓発するため記載しています。発信情報から、ご自身のPCやシステムへの影響を判断の上、速やかな対策を心がけてください。

9月は、「緊急」1件、「注意」2件を公開しました。

重要なセキュリティ情報の詳細については、次の URL をご覧ください。

<https://www.ipa.go.jp/security/announce/alert.html>

## Ⅲ. ソフトウェア高信頼化センター（SEC）

### 1. 「セーフティ設計・セキュリティ設計に関する実態調査結果」を公開

（担当理事（本部長）：立石、担当所長：松本）

IPAは、先進的に取り組んでいると想定される企業に対して実態調査を行い、その結果を「セーフティ設計<sup>2</sup>・セキュリティ設計<sup>3</sup>に関する実態調査結果」として、9月10日（木）に公開しました。

<sup>1</sup> 「重要なセキュリティ情報」は、次の基準で対策の緊急度を表しています。

「緊急」…影響度の高いセキュリティ上の問題があると公表された情報でかつ、当該問題を悪用した攻撃が実際に行われているケース。

「注意」…影響度の高いセキュリティ上の問題があると公表された情報又は、当該問題を悪用した攻撃が行われる可能性があるケース。

<sup>2</sup> 人命や財産の安全を確保するため、設計の段階で安全性に関わるリスク分析とリスク低減を行うこと

<sup>3</sup> 情報の機密性や完全性などセキュリティを確保するため、設計の段階で脆弱性の低減や脅威への対策を考慮に入れたリスク分析とリスク低減を行うこと

本調査報告書は、今後IoT製品<sup>4</sup>の開発が拡大していくと想定される「自動車」・「スマートフォン」・「ヘルスケア」・「スマート家電」の4分野を主な対象に、320の組織に対してアンケート調査を行いました。その結果、各企業のセーフティ設計・セキュリティ設計の必要性に関する意識や実施における課題などが明らかになりました。

IPAでは、本調査結果が広く産業界に本設計手法を定着させ、かつ本設計品質の見える化<sup>5</sup>の普及に寄与することを期待するとともに普及を推進していきます。

「セーフティ設計・セキュリティ設計に関する実態調査結果」の詳細については、次のURLをご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/sec/reports/20150910.html>

## 2. 「STAMP 手法に関する調査報告書」を公開

(担当理事(本部長):立石、担当所長:松本)

IPAは、STAMP<sup>6</sup>の有効性・活用方法を検討するとともに日本における活用方法の確立と普及展開を目指して活動しており、その一環として、「STAMP手法に関する調査報告書」を9月18日(金)に公開しました。

本調査報告書は、STAMPの基礎的な解説、STAMPでシステムの安全性を解析するために用いるツールの解説の他、ツールを用いて医療機器や航空機などの実際のシステムの安全性を解析した研究例の紹介や研究者へのインタビューが含まれています。

IPAでは、本調査報告書が数少ない日本語のSTAMP手法の入門書としてシステムの開発や運用の場面で利用され、事故や障害の少ない安全なシステムが普及していくことを期待しています。

「STAMP手法に関する調査報告書」の詳細については、次のURLをご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/sec/reports/20150918.html>

## 3. 「CEATEC JAPAN 2015 (シーテック ジャパン 2015)」に出展 (開催案内)

(担当理事(本部長):立石、担当所長:松本)

IPAは、10月7日(火)から10月10日(土)まで幕張メッセ(千葉県千葉市)にて開催される「CEATEC JAPAN 2015 (シーテック ジャパン 2015)」に出展します。

<sup>4</sup> インターネットを介して他の製品と直接情報をやりとりする機能を持つ製品

<sup>5</sup> 設計の品質をエビデンス(証拠)に基づき、第三者でも容易に理解できる表記で論理的に説明する手法

<sup>6</sup> STAMP: Systems-Theoretic Accident Model and Processes 複雑なシステムに対する安全性解析の手法の一つ。ここで言うシステムとはITシステムに限らず、機械部品や機械そのもの、人、環境など、複数の人や物が連携することによって成り立つ仕事や機構全てを指す。

GEATEC JAPAN 2015 は、一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）、一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会（CIAJ）、一般社団法人コンピュータソフトウェア協会（CSAJ）の3団体から成る GEATEC JAPAN 実施協議会の主催による、世界に向けて日本の IT・エレクトロニクス先進技術の成果を発信するイベントです。

今回の全体のテーマは「NEXT-夢を力に、未来への挑戦」となっており、IPA でもこのテーマに沿って、安全・安心な IoT 時代を支えるための取り組みや事業成果と、それらに関係する最新技術動向について紹介します。出展ブースにて「SEC 先端技術入門ゼミ」、「ブースプレゼン」、「デモンストレーション」、「資料配布」を実施する他、併設会場にて開催される各種イベントにも参加します。

「GEATEC JAPAN 2015」出展の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/sec/events/20151007.html>

#### 4. BCN 主催セミナー「必ず役立つ！システム開発の革新的ツール ～コード解析で生産性と品質の向上を両立～」にて講演

（担当理事（本部長）：立石、担当所長：松本）

IPA は、9 月 18 日（金）にヒルトンプラザ・ウエスト（大阪府大阪市）で開催された BCN 主催セミナー「必ず役立つ！システム開発の革新的ツール ～コード解析で生産性と品質の向上を両立～」にて講演しました。

本セミナーは、株式会社 BCN が主催するもので、IT システムやソフトウェアの開発や販売、運用を行う企業向けに、生産性と品質の向上をテーマとした講演を行うものです。

IPA は本セミナーにおいて、生産性と品質の向上が必要とされている背景について IPA 内外の公開調査結果などを交えて講演を行いました。

本セミナーでは定員 30 名を超える方々に参加いただき、盛況の内に講演を終えることができました。IPA では、今後も講演活動を続けていきます。

BCN 主催セミナーの詳細については、次の URL をご覧ください。

[http://www.seminar-reg.jp/bcn/ogis-ri\\_0918/](http://www.seminar-reg.jp/bcn/ogis-ri_0918/)

#### 5. 「SEC journal 第 42 号」を発刊

（担当理事（本部長）：立石、担当所長：松本）

IPA は、SEC journal 第 42 号を 9 月 1 日（火）に発刊しました。SEC journal は、2005 年 1 月に創刊号発行以来、毎年 4 回発行しており、SEC の活動成果やソフトウェア開発に関する事例や論文を掲載しています。

SEC journal 第 42 号の主な掲載記事は、以下のとおりです。

- ・ 所長対談：車載ソフトウェア開発の今後の方向性  
株式会社デンソー 技監 村山 浩之 氏
- ・ 論文：チェックリストを用いたコードレビューと判別モデルの組合せによる  
モジュールの不具合リスクのランク付け  
組込みソフトウェア開発における設計関連メトリクスに基づく下流  
試験欠陥数の予測
- ・ 報告：国際展示会「CeBIT2015」への参加及び海外有力機関との意見交換  
ドイツ Steinbeis 訪問報告  
Embedded Technology West 2015 (ETWest2015) 出展報告

SEC journal の詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/sec/secjournal/index.html>

## 6. SEC セミナー開催報告（9 月）および開催案内（10 月）

（担当理事（本部長）：立石、担当所長：松本）

IPA は、事業成果を広く普及・啓発することを目的としたセミナー、ソフトウェア・エンジニアリングに関する国内外の最新動向などを紹介する特別セミナーをそれぞれ実施しています。

9 月は、次の日程で実施しました。

- ・ SEC 高信頼化技術セミナー  
モデルベースシステムズエンジニアリング入門  
～システムを考えるハンズオンワークショップ～  
（9 月 4 日）

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20150904.html>

- ・ ESCR リーダーズ&トレーナーズセミナー  
組込みソフトウェア開発向けコーディング作法ガイド [C 言語版] (ESCR) のリー  
ダーおよび品質向上推進者向けセミナー  
～ソフトウェア製品の品質の安定・向上を達成するために～  
（9 月 4 日）

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20150904-02.html>

- ・ プロセス改善推進者育成セミナー  
～プロセス改善概説と改善ツール体験～  
（9 月 9 日）

<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20150909.html>



- ・ 2015 年度 第 2 回 ASIF 応用技術セミナー  
 ～組み込みシステム障害未然防止のための体験型ワークショップセミナー～  
 (9 月 10 日)  
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20150910.html>
- ・ 事例から学ぶ IT サービスの高信頼化へのアプローチ  
 ～障害事例の分析から導かれた情報処理システム高信頼化教訓集～  
 (9 月 11 日)  
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20150911.html>
- ・ SEC 高信頼化技術セミナー  
 上流工程における問題を解決するために  
 ～ソフトウェアエンジニアリングに基づく形式手法入門～  
 (9 月 12 日)  
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20150912.html>
- ・ 大規模複雑化した組み込みソフトウェアへのモデルベース活用  
 ～IPA/JEITA 共催セミナー～  
 (9 月 17 日)  
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20150917.html>
- ・ 第 3 回 定量的マネジメントセミナー  
 (9 月 25 日)  
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20150925.html>
- ・ SPEAK－IPA 準アセッサ育成セミナー (Basic)  
 ～プロセス・アセスメント研修 (ベーシック) ～  
 (9 月 28 日～9 月 29 日)  
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20150928-29.html>
- ・ 非機能要求の明確化に基づく、災害にも安心な IT サービス継続のためのシステム基盤の構築  
 ～「非機能要求グレード」・「高回復力システム基盤導入ガイド」の解説～  
 (9 月 30 日)  
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20150930.html>

10 月は、次の日程で開催を予定しています。

- ・ SEC 高信頼化技術セミナー  
 厳密な仕様記述入門 仕様書について考えるワークショップ  
 (10 月 5 日)  
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20151005.html>

- ・アジャイル開発実践セミナー  
「アジャイル型開発におけるプラクティス活用リファレンスガイド」の勘所と活用方法  
(10月7日)  
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20151007.html>
- ・ソフトウェア品質向上のためのコーディング技法と標準  
～安全で高信頼なシステム／製品の開発に向けて～  
(10月14日)  
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20151014.html>
- ・3500プロジェクトの開発データで実証された品質マネジメントのヒントと現場事例  
～ソフトウェア開発データに基づく信頼性・生産性向上に向けたメッセージ～  
(10月16日)  
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20151016.html>
- ・定量的なプロジェクト管理・プログラム管理のススメ  
～見える化による生産性・信頼性の向上～  
(10月30日)  
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20151030.html>
- ・共通フレーム解説とプロセス改善推進セミナー  
～ソフトウェア開発プロセスにおける組織の課題を見つけて改善するために～  
(11月4日)  
<http://sec.ipa.go.jp/seminar/20151104.html>

#### IV. 国際標準の推進

##### 1. 「情報の価値を最大化する『共通語彙基盤』セミナー～“つながる”データ“つながる”システム～」仙台・札幌・大阪・新潟会場の開催報告

(担当理事(本部長):立石、担当センター長:田代)

IPAは「情報の価値を最大化する『共通語彙基盤』セミナー～“つながる”データ“つながる”システム～」を実施しました。

IT戦略である「世界最先端IT国家創造宣言」では、情報連携やオープンデータでの公開にデータに統一性を持たせることが重要としています。IPAではデータで用いられる言葉の意味や構造を整理するとともに、それに基づいて情報を効率的に構築するツールの開発等を行う「共通語彙基盤事業」を推進しています。

本セミナーは「共通語彙基盤」への理解を広げるために、7月の福岡を皮切りに、9月3日(木)仙台合同庁舎6階会議室(宮城県仙台市)、4日(金)札幌第一合同庁舎(北海道札幌市)、11日(金)阪急グランドビル(大阪府大阪市)の4箇所を実施し、17日(木)(新潟県新潟市)には大学連携新潟協議会ビッグデータ・オープンデータ活用研究会、プロフェッショナル・サービス経営人材育成コンソーシアムとの共催で実施しました。

効率的なオープンデータの構築を目指している先進自治体の事例を中心に、実際にどのように「データ」を活用すれば良いかデモを交えながら説明を実施しました。中でも機械判別可能な形式でオープンデータ化が進む北海道森町の山形巧哉氏のご講演（札幌会場）では、業務効率化の一番の手段は「語彙統一」である事が強調されました。

総計 200 人強の方にご参加いただき、それぞれの会場で、オープンデータに直接関わる地元の皆様から、現状のご苦勞や今後に向けてのご要望をいただく事が出来、大きな手応えを得ることが出来ました。

本イベントの詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://goikiban.ipa.go.jp/node1060>

<http://goikiban.ipa.go.jp/node1076>

## **V. IT 人材育成**

### **1. 「セキュリティ・ミニキャンプ in 北陸」を共催**

（担当理事（本部長）：田中、担当センター長：片岡）

IPA は、セキュリティ・キャンプ実施協議会と共同で「セキュリティ・ミニキャンプ in 北陸」を金沢大学サテライト・プラザ（石川県金沢市）で 9 月 26 日（土）・27 日（日）の両日開催しました。

北陸地域では初めての開催でしたが、金沢大学、金沢工業大学、北陸先端科学技術大学院大学のご協力を得て、一般講座と専門講座の 2 講座を実施しました（一般講座参加者 75 名、専門講座参加者 20 名）。

1 日目の一般講座では、北陸先端科学技術大学院大学 篠田教授の基調講演をはじめ、（株）富士通北陸システムズ、（株）jig.jp などの地元企業を中心に IoT 時代のセキュリティの新たな課題と対応状況に関する講演を行いました。2 日目の専門講座では、通信の物理層から学ぶネットワークの仕組みについて、LAN ケーブルの構造やマイコン自作を通じた実際的な演習を行いました。

参加者からは、「実際に手を動かした実習を行う環境が日常ではないため、仕組みを目で見て体感できる機会が得られたことはとても有意義だった」などの感想がありました。

「セキュリティ・ミニキャンプ in 北陸」の詳細については、次の URL をご覧ください。

[http://www.ipa.go.jp/jinzai/camp/2015/minicamp2015\\_hokuriku.html](http://www.ipa.go.jp/jinzai/camp/2015/minicamp2015_hokuriku.html)

## 2. 「価値創造で新たなステージへ～未来をデザインする i コンピテンシ ディクショナリ～」セミナーを開催

(担当理事 (本部長) : 田中、担当センター長 : 秋元)

IPA は、「価値創造で新たなステージへ～未来をデザインする i コンピテンシ ディクショナリ～」セミナーを 9 月 15 日 (火) に銀座ブロッサム中央会館ホール (東京都中央区) にて開催しました。

本セミナーでは、6 月 30 日 (火) に公開した「i コンピテンシ ディクショナリ 2015 (iCD2015)」および「i コンピテンシ ディクショナリ活用システム (iCD 活用システム)」の紹介に加え、今注目される「情報セキュリティマネジメント人材」の重要性とその育成についての解説や平成 28 年度から開始予定の情報処理技術者試験の新試験区分「情報セキュリティマネジメント試験」の紹介を行いました。

本セミナーには、400 名を越す多くの方々にご来場いただくとともに、来場者アンケートでは、セミナー内容について約 8 割の方に「満足」もしくは「ほぼ満足」とご回答いただきました。「iCD に関心を持った、導入を検討したい。」といったご意見を多数いただく一方で、「既に IT スキル標準等を導入している企業でどのように iCD を活用するのかについての説明が聞きたい。」とのご意見もございました。

IPA は、今回いただいたご意見等を今後の事業に生かすとともに、引き続き積極的な情報提供に努めます。

今後、「iCD2015」および「iCD 活用システム」の活用がますます広がり、IT を利活用する様々な組織・個人が共通して参照する「人材育成のプラットフォーム」として発展していくことを期待します。

本セミナーの詳細については、次の URL をご覧ください。

[http://www.ipa.go.jp/jinzai/hrd/event\\_20150915.html](http://www.ipa.go.jp/jinzai/hrd/event_20150915.html)

## 3. 平成 27 年度秋期情報処理技術者試験の応募者数について

(担当理事 (本部長) : 田中、担当センター長 : 山城)

IPA は、平成 27 年度秋期情報処理技術者試験 (所管 : 経済産業省、10 月 18 日 (日) 実施) の応募者数を 9 月 10 日 (木) に公表しました。

平成 27 年度秋期情報処理技術者試験 (以下、秋期試験) の応募者数は、前年同期比 98.0% の 191,596 人となりました。

秋期試験における区分別の応募者数は、基本情報技術者試験が 73,211 人 (前年同期比 : 98.2%)、応用情報技術者試験が 50,594 人 (前年同期比 : 98.0%)、高度試験が 67,781 人 (前年同期比 : 97.7%) です。

平成 27 年度秋期試験では、情報セキュリティスペシャリスト試験が平成 26 年度秋期試験、平成 27 年度春期試験に続き、前年同期比で応募者数が増加しました。

各試験区分の応募者数は以下のとおりです。

	応募者数	前年同期 応募者数	前年 同期比
総数	191,596	195,587	98.0%
基本情報技術者試験	73,221	74,577	98.2%
応用情報技術者試験	50,594	51,647	98.0%
高度試験	67,781	69,363	97.7%
ITストラテジスト試験	6,663	6,739	98.9%
システムアーキテクト試験	8,181	8,814	92.8%
ネットワークスペシャリスト試験	18,990	20,220	93.9%
情報セキュリティスペシャリスト試験	28,274	27,735	101.9%
ITサービスマネージャ試験	5,673	5,855	96.9%

応募者の詳細については、次の URL（統計情報）をご覧ください。

[http://www.jitec.ipa.go.jp/1\\_07toukei/\\_index\\_toukei.html](http://www.jitec.ipa.go.jp/1_07toukei/_index_toukei.html)

## VI. その他

### 1. 「IPA シンポジウム 2015」の開催のご案内

（担当理事：田中、担当部長：中村）

IPA は、来たる 10 月 21 日（水）に、東京ミッドタウンホール（東京都港区）において「IPA シンポジウム 2015」を開催します。

本シンポジウムは「すべてが繋がるミライノベーション」をテーマとして、IT による“つながり”と“情報の新しい価値”、そして“変革”をテーマに、ビジネス戦略、人材の育成を含めたマネジメント、そしてテクノロジーの観点から課題等を明らかにし、我が国の情報化社会の成長と発展に寄与することを目的に、国内外の有識者による講演などで構成するイベントです。

今回の「IPA シンポジウム 2015」のプログラムは、以下のとおりです。

【基調講演】 11:00 ～ 12:00 ホール A

「IoT（Internet of Things）の最新技術動向とビジネスインパクト  
～IoT を基軸にした攻めの IT 経営へのヒント～」

梶本 一夫氏（パナソニック株式会社 全社 CTO 室 ソフトウェア戦略担当理事）

【ストラテジー・トラック】 13:30 ～ 17:00 ホール B

「インダストリー4.0：ドイツが国を挙げて取り組む第4次産業革命 ～IT でつな  
がる製造業の未来～」

川野 俊充氏（ベッコフオートメーション株式会社 代表取締役社長）

「ソーシャルファブの新展開～オープンイノベーションとモビリティ～」

会津 泉氏（公益財団法人 ハイパーネットワーク社会研究所 主席研究員）

「つながる時代におけるサイバー攻撃の潮流と企業におけるセキュリティ」

西本 逸郎氏（株式会社ラック 取締役、最高技術責任者）

名和 利男氏（株式会社サイバーディフェンス研究所 専務理事、上級分析官）

高橋 正和氏（日本マイクロソフト株式会社 技術統括室

チーフセキュリティアドバイザー）

【マネジメント・トラック】 13:30～17:10 ホールA-1

「現代社会における教育のシンプルで効果的な評価の秘訣」

ジム・カークパトリック 博士（カークパトリックパートナーズ

シニアコンサルタント）

「ビッグデータ時代のオープンイノベーションのあり方」

元橋 一之氏（東京大学 工学系研究科 レジリエンス工学研究センター

技術経営戦略学専攻 教授）

「尖った人材の育て方、活かし方」

山下 達也氏（エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社 理事、

技術開発部長）

佐々木 康晴氏

（株式会社電通 CDC エグゼクティブ・クリエーティブ・ディレクター、

デジタル・クリエーティブ・センター長）

南 政樹氏（慶應義塾大学 環境情報学部 講師、アクセリア株式会社 取締役）

片岡 晃（IPA IT 人材育成本部 イノベーション人材センター長）

【テクノロジー・トラック】 13:30～17:00 ホールA-2

「セキュリティとセキュリティの統合のための課題とその解決方法論」

田口 研治氏（国立研究開発法人 産業技術総合研究所 情報技術研究部門

ソフトウェアアナリティクス研究グループ 招聘研究員）

「IoT時代に必要とされるセキュリティ技術者とは？」

鶴飼 裕司氏（株式会社FFRI 代表取締役社長）

辻 伸弘氏（ソフトバンク・テクノロジー株式会社 技術統括

セキュリティソリューション本部 シニアセキュリティエヴァンジェリスト）

中野 学（IPA 技術本部 セキュリティセンター

情報セキュリティ技術ラボラトリー 主任）

「つながる制御システムを支える技術 ORiN」

犬飼 利宏 氏

（一般社団法人日本ロボット工業会 ORiN 協議会 技術委員会 委員長、

株式会社デンソーウェーブ 制御システム事業部 技術1部 室長）

「人工知能は人間を超えるか～ディープラーニングの先にあるもの～」

松尾 豊氏（東京大学大学院 工学系研究科 准教授）

本シンポジウムは入場無料です。ご聴講には事前登録が必要です。

「IPA シンポジウム 2015」の事前登録および詳細については、次の URL をご覧ください。

<http://www.ipa.go.jp/about/event/ipasympo2015/index.html>

問合せ先 独立行政法人 情報処理推進機構  
戦略企画部 企画・調査G 笛木・中山  
〒113-6591  
東京都文京区本駒込二丁目 28 番 8 号  
文京グリーンコートセンターオフィス  
TEL : 03-5978-7503  
E-mail : spd-plan@ipa.go.jp